

グローバル・ファイナンス・ファシリティ(GFF)は、リプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)並びに母子・青少年の健康・栄養の改善を目的とする資金調達プラットフォームです。日本国際交流センター(JCIE)では、GFFに関する理解を促進するために、GFFの最新情報を皆さまにお届けするニュースレター「GFF Monitor」を発行しています。



「デリバー・ザ・フューチャー (Deliver the Future)」 キャンペーン実現に向けた増資プレッジ・イベント終幕

今年の6月下旬から、コートジボワール、ドイツ、オランダと世界銀行(世銀)が旗振り役となってGFFへの増資キャンペーン「デリバー・ザ・フューチャー(未来を約束する)」が行われてきました。10月16日には、ドイツ・ベルリンにて、世界保健サミット(World Health Summit: WHS) 2023の一環としてプレッジ(誓約)イベントが開催されました。2030年までに2億5千万人の女性・子ども・青少年のより健康な未来を約束するために必要な、調達目標総額8億ドルの増資計画のうち、約4.5億ドルのプレッジが行われました。

GFFにとって初めてとなる今回のプレッジ・イベントでは、新規のドナーとしてChildren's Investment Fund Foundation (CIFF)と米国政府がプレッジを行い、オランダ、イギリス、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ドイツといった既存のドナーも増資を誓約しました。日本はこれまでGFFに累計で1億1千万ドルの拠出を表明しており、近いうちに新しいプレッジが行われることが期待されます。

GFF事業実施国(パートナー国)も、以下のような女性・子ども・青少年の健康改善へのコミットメントを誓約しました。

- コートジボワールは、2025年までに妊産婦死亡率を18%削減し、プライマリ・ヘルスケア・センターを40%増やす
- エチオピアは、避妊用医療品の自己資金による調達を増やしていき、3年後には総額11.3百万ドルを国内予算の新たな資金で調達する
- リベリアは、女性・子ども・青少年の健康に係る予算を毎年5%増加し、2030年までに妊産婦死亡率を更に35%削減する
- マラウイは、リプロダクティブ・新生児・子ども・青少年の健康と栄養への国内予算を毎年10%増額する

2015年の発足以来ドナーが直接GFFに拠出した20億ドルは、総額320億ドルの資金動員につながりました*1。それはGFFが触媒的な役割を果たし、主に世銀グループの資金が追加的に動員(GFFによる助成1ドルに対して世銀から約7ドル)されたこと、さらに国が主体的に定め

*1 別の表記がない限り、この記事内の実績データはすべて「Deliver the Future - Catalyzing Opportunities for Women, Children, and Adolescents」に基づくものです。

た保健優先課題に政府予算とその他の援助資金をリンク・整合させるGFFの支援によって、GFFの1ドルに対して国際機関などの開発パートナーから6.3ドル、政府予算が9.3ドル、保健分野への投資が増えたことによります。その結果、8年間の成果として右図が挙げられます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックと相まって、現時点でGFFパートナー国36か国を含む60か国以上が、母子保健関連の持続可能な開発目標（SDGs）を2030年までに達成できないと予測されています。そのような現状を劇的に改善するためにも、保健システムの強化を通じた女性・子ども・青少年への保健サービスの拡大が急務です。

GFFは今後、既存のGFFパートナー27か国へ第2ラウンドの助成を提供し、さらに7つのGFFパートナー国への



新規助成を実施する計画です。その資金によって保健システムの強化とプライマリ・ヘルスケアの推進が加速し、その結果、新たな7千万人を加えた2億5千万人の女性・子ども・青少年が、必須かつインパクトの高い保健サービスを受けることが可能になる、と訴えています。

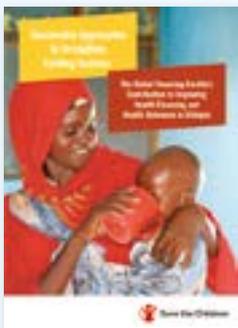
GFFに関する調査報告書



UHC実現に向けて：GFFによるPHC推進支援

日本国際交流センター（JCIE）発行（2023年10月）

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現に不可欠なプライマリ・ヘルスケア（PHC）の推進にGFFがどのように寄与しているのかを、コートジボワール、ベトナム、タジキスタンの3か国を事例に検証した報告書。UHCとPHCの関連性を提示した上で、各国におけるGFFの特長なPHC推進事業を解説しています。コートジボワールでは、コミュニティレベルでのPHCサービス提供の改善や皆保険制度拡大に向けた取り組み、ベトナムでは草の根レベルのサービス提供と市民登録・人口動態統計（CRVS）整備への支援、タジキスタンでは政府主導のカントリー・プラットフォーム設置や新型コロナウイルス感染症対策のサポートが取り上げられています。GFFモデルの特長である世銀融資との連携も各国の事例の中で言及されています。（全18ページ）



保健システム強化のための持続的なアプローチ： エチオピアの保健財政と保健アウトカム改善におけるGFFの貢献

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン発行（2023年9月） [和文](#) | [英文](#)

GFFの主要なCSOパートナーであるセーブ・ザ・チルドレンが、最も早くGFFパートナー国となったエチオピアにおけるこれまでの成果を、関係者への聞き取り調査や、文献調査、二次データ分析をもとにまとめた報告書。これまでのGFF支援の成果として、保健省の能力構築への貢献、UHCへの貢献、保健資金のアラインメントとマッピング・トラッキング向上への貢献などを挙げています。また、GFFの特長である触媒的な役割の効果としてGFFの1ドルがエチオピアでは9.9ドル、GFFパートナー国全体の平均では7.2ドルの世銀などの資金動員につながっていると説明しています。GFFモデルが、国レベルで実際にどのように機能しているのかが良くわかります。（全26ページ）

になりましたが、最も必要なのはアカウントビリティのフレームワークをつくることです。それは何かというと、政府とドナーが共通の目標を設定し、その達成に両者がともに責任を持つような仕組みです。次の課題は、エチオピアは広大かつ多様な国なので、国内の地域レベルの調整がとても困難です。最後に、ドナー国側の政策などの事情によってアラインメントへコミットできないパートナーがいることも課題です。市民社会の巻き込みも改善の余地があると指摘されていますが、市民社会側が必ずしも一枚岩ではなく、また全ての団体を網羅することはできないことから、難しい課題のひとつです。

—このような課題への取り組みにあたり、GFFへ期待することは何でしょうか？

これから必要なのは国レベルの調整だけではなく、地域レベルでのパートナーとのアラインメントです。複数の地域にわたる活動にはかなりのインパクトがあります。ドナーやパートナーが複数の地域で活動する場合、保健省が管轄することになっており、GFFの支援によって地域レベルでもさらにアラインメントを進めることで良い効果を生み出したいと考えています。また、アラインメントはエチオピア以外のアフリカ諸国でも進むことが期待されています。エチオピアは、他のGFFパートナー国よりも多少プロセスが先行していると思いますが、GFFの重要な役割は、国同士の学びを後押しし、より多くの国でのアラインメント促進を支援することであると考えます。

More about GFF

国際保健分野のドナー協調とGFFのアラインメント・ワーキング・グループ(AWG)について

低・中所得国において、各国政府主導の下、保健分野のドナー間の支援を調整する取り組みは、これまで「ミレニアム開発目標」(MDGs、2001-15年)や「持続可能な開発目標」(SDGs、2016-30年)が掲げられる毎に発展しつつ進められてきました。

2022年に組織された「国際保健イニシアティブの未来」([Future of Global Health Initiatives : FGHI](#))は、グローバルファンド、Gavi、革新的な新規診断法のための基金(FIND)、Unitaid、GFF、感染症流行対策イノベーション連合(CEPI)を中心とする保健分野資金拠出機関を対象に、その協調のあり方について検討を進めているマルチステークホルダーによるプロセスです。ザンビアの首都ルサカで11月26日から開催された第3回アフリカ公衆衛生国際会議(3rd International Conference on Public Health in Africa: CPHIA 2023)の[サイドイベント](#)にて、これまでの成果を振り返る[研究報告書](#)を踏まえて議論され、それら機関の今後の長期的発展ならびにより広範な保健エコシステムに向けた5つの重要な転換について合意し、そのための行動の触媒となる短期的な優先順位を定める「[Lusaka Agenda](#)」が12月12日に発表されました。

GFFが、FGHI開始とほぼ時を同じくして2021年に設立したアラインメント・ワーキング・グループ(AWG)^{※4}は、こうした取り組みの一つに位置付けられ、GFFパートナー国の国レベルでのアラインメントを困難にしている課題を洗い出し、アラインメント促進のアプローチとフレームワークを策定するも

のです。特筆すべきは、国レベルのアラインメントの現状を客観的に評価し、改善の進捗を可視化するフレームワークの策定です。

このフレームワークは、以下の二つの関連する要素から成り立っています。

- ▶ アラインメント診断は「国の健康診断」で、「ひとつの計画、ひとつの予算、ひとつの報告書」のそれぞれの分野におけるアラインメントの現状を把握する第一歩として、政府と開発パートナー、市民社会などが一緒に行います。
- ▶ 上記の診断をもとに、アラインメント成熟度モデルを導入します。これは1から5までの値(5が最高値)でアラインメントの成熟度を評価するものです。アラインメントの進捗を可視化することで、一層の促進に必要な具体的なプロセスや方策の選定に寄与します。例えば、アラインメントが最も進んでいるエチオピアは「アラインメント成熟度モデル」のスコアが2023年1月現在3.4で、2024年末までに5に引き上げることを目標としています^{※5}。

現在、エチオピア以外では、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国とルワンダでこのアラインメント・フレームワークを用いたパイロット事業が展開されています。

※4 メンバーは、GFFパートナー国4か国(エチオピア、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国、ルワンダ)の保健省、UN(WHO)、Gavi、米政府、英国政府、ビル&メリンダ・ゲイツ財団。

※5 Alignment Framework: Ethiopian Harmonized Action Plan (February 2023: 本号掲載インタビューに先立ち、GFF事務局より入手)